

第1号様式

令和5年度 第2回 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 担当者会議 議事録	
日時	令和5年11月30日(木) 14:00 ~ 16:00
開催場所	保土ヶ谷公会堂 第一会議室
出席者	<p><事務局>石田(夢21)、市川・久保・内田・明田川・井上(保土ヶ谷区役所高齢・障害支援課)、平良(保土ヶ谷区生活支援センター)、島田・早坂(ほどがや希望の家)、相原(恵和相談室)、大竹(保土ヶ谷区社協)、野田(いわまワークス)、遠藤(保土ヶ谷区基幹)</p> <p><各部部长(担当者)>、武藤(かるがもの会)、谷口(夢21相談支援事業所)、高桑(いわまワークス)、斉藤(グランドマーリン)、杉山(保土ヶ谷支援学校)、吉田・芝・佐藤(保土ヶ谷区基幹)</p>
欠席者	力石(トラック)、菅田(虹の会)、菊地(保土ヶ谷区役所こども家庭支援課) 田中(わおん)
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ 非公開 記録:
議題	<p>司会進行: 遠藤 議事録: 相原</p> <p>はじめに。(遠藤氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保土ヶ谷区の自立支援協議会の正式名称についての再周知 各部会の文書等で、異なる表記が見られている。「保土ヶ谷区 障害者地域自立支援協議会」に統一する方向で検討中。 12月11日 3機関定例CFの件 ※出席者の確認 部会長の参加の可否を確認。各部会においても確認する。 <p>1. 第2回代表者会議全体会(11月2日実施)の報告 / 14:05-14:20</p> <p>○報告 代表者会の詳細は議事録を参照。(遠藤氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当者会議の位置づけについて確認 「各部会の共有を行うとともに、区域の課題を共有・整理し、区域で取り組む内容を確認する場」 地域生活支援拠点 障害者が安心して地域で暮らし続けられるように支える機能を持つ体制のこと、つまりネットワーク。今日の会議に参加している私たちが協力しながら整備していく。それには自立協の活用が大切。 拠点の整備計画 整備計画は障害のある方を地域全体で支えるサービス提供体制の構築を目指すための計画。障害分野を超えて、共生社会の実現に向けて取り組んでいく必要がある。保土ヶ谷区では今年度からの取り組みとして、3機関・自立協事務局・部会長が協働して作成していく。 <p>流れとしては【代表者会議での地域課題抽出➡担当者会議での取り組みのアイデア出し➡12月3機関会議(3機関・事務局・部会長が参加)での整備計画(案)作成】のサイクルを循環させ、保土ヶ谷区における地域包括支援体制の構築を目指していく。 →地域生活支援拠点の概念は難しいので、繰り返し確認していく必要がある。</p> <p>○各部部长(担当者)より参加しての感想</p>

- ・多くの人が集まっていると感じた。高齢重度のグループワークでは、ホームでの看取りなど貴重な意見を聞くことができた。(武藤氏)
- ・他の部会の顔ぶれがわかった。ネットワークを広げるための学びになった。(斎藤氏)
- ・人材育成、確保は共通する課題であり、グループワークでは斬新な意見が出ていた。ネットワークを活用して具体的な動きにできれば。(高桑氏)
- ・拠点についてはある程度分かっている、他者に説明するのは難しいと感じる。グループワーク(家族支援)では、本人支援の中での家族との関わりについて、本人の希望を叶える為に家族とどうかかわるか、という話になった。(谷口氏)

2. 各部会より報告

○報告内容

	運営目的	トピックス	課題や困りごと
事務局 (石田)	協議会の運営と進捗管理	自立協のホームページの更新、保土ヶ谷区の社会資源マップ作りを進めている。	ホームページ更新に伴う予算の調整。
精神 net (斉藤)	協議会部会の機能と並行して、「にも包括」における協議の場でもある。 精神障害の有無や程度に関わらず、だれもが住みよい保土ヶ谷区の体制づくりを推進。	事例→地域課題→具体的取組、という自立協の基本的な役割としてやっている。	課題を整理し、次年度以降どう取り組んでいくか、目的意識を持ってやっていく。
ほっとらんど (早坂)	西谷地区センターのコーヒESHOPの運営	コーヒの提供ができているが、参加事業所が少ない。	ボランティアの高齢化 今後の活動をどう継続して行くか。
こども (吉田)	関係者が集まり、情報と課題を共有する。	代表者会議の記録に準ずる	放デイ支援者、教員の時間が合わない中で、参加者の交流をどう図っていくか。
こども余暇 (大竹)	当初の目的は親のレスパイト	3月はプチレスパイトとして、こどもの活動中に親は離れて過ごすようにする。	実施回数を増やしたいが、体制、ノウハウ、人員が難しい。
自主製品 (武藤)	販売による地域との交流、理解の促進、工賃を得る	・イオンの販売では、12月の障害者週間に合わせ、デジタル広告が流れる。 ・10月の星川駅の販売では昨年よりも10万円以上売り上げが増えた。	・12月13日の西谷浄水場での販売依頼があるが、食品の提供が難しい。 ・販売希望、リクエストにこたえきれない ・現在14事業所が参加しているが、安定した人員の確保や、運搬のための車の確保が難しい。
相談支援 (谷口)	相談事業所は、自立支援協議会への参画が求められている。	・昨年より事務局を設置し、一人職場でも参加しやすい方法や、部会の内容を検討してきた結果、参加人数が増えている。 ・12月は初任者研修の受講生が部会に参加する。	・福祉サービスは計画相談に限らずいろいろ足りなくなりそう。 ・児童の分野は情報が少なく、わからないことが多い。
防災 (早坂)	被災地障害者センターの立ち上げ	被災地障害者センターの設立総会がおこなわれた。	・実際に災害があった時を想定して準備、シミュレーショ

			ンしたい。 ・防災マニュアルやBCP計画とのすみわけ。
まちで暮らす拠点 (高桑)	地域生活支援拠点を進める。 事業所間のネットワークづくり	・5月に顔合わせ、拠点とは何かの確認をした。 ・7月、11月は事例検討をおこない、地域課題を抽出。アイデア出しに力を入れて実施した。 ・9月は管理者向けのグループホームの交流会。人材についてアイデア出しを実施。	グループホーム支援者は、現場の人にも参加してほしい。
当事者 (早坂)	福祉教育の実施 親亡き後も地域で安心して生活できる体制づくり	2月3日に映画の上映会。準備等はボランティアにもやってもらう。チラシは5000枚刷った。	ホームページの影響から、予算が少なくなっている。

○質問等

・こども部会への質問

放課後等デイサービスについて、保土ヶ谷区内では社会福祉法人での運営は2か所だが、民間ではどれくらいの参加があるか (石田氏)

→部会には4~5つの事業所が参加している。保土ヶ谷区内には約30か所事業所があり20か所ほど基幹が回ってチラシを配っている。今後も参加者は増やしていきたい。単体の事業所、大きな組織の支店、では考え方や求めるところが違うのか、単体の事業所の方が参加が多い印象がある。

→放デイの事業所は、横のつながりを求めることが少ないように感じる。客の取り合いのようにならないと良いが、情報共有は重要と思われる。

→3機関カンファレンスには、こども家庭支援課は参加していない。放デイを利用する高3生の共有など、連続した支援のために繋がっておく必要性を感じる。

→拠点については、学校では浸透していないと感じる。高等部の教員になって進路や将来のことを考えると、そういうものもあるのか、という程度。

(吉田氏、遠藤氏、杉山氏)

3. グループワーク

1 グループ家防高 野田・早坂・井上・武藤・谷口・佐藤

2 グループ家強地 久保・大竹・相原・斉藤・吉田

3 グループ家人地 明田川・島田・高桑・杉本・芝・内田

フリー 市川・石田・平良・遠藤

【グループワークの内容】

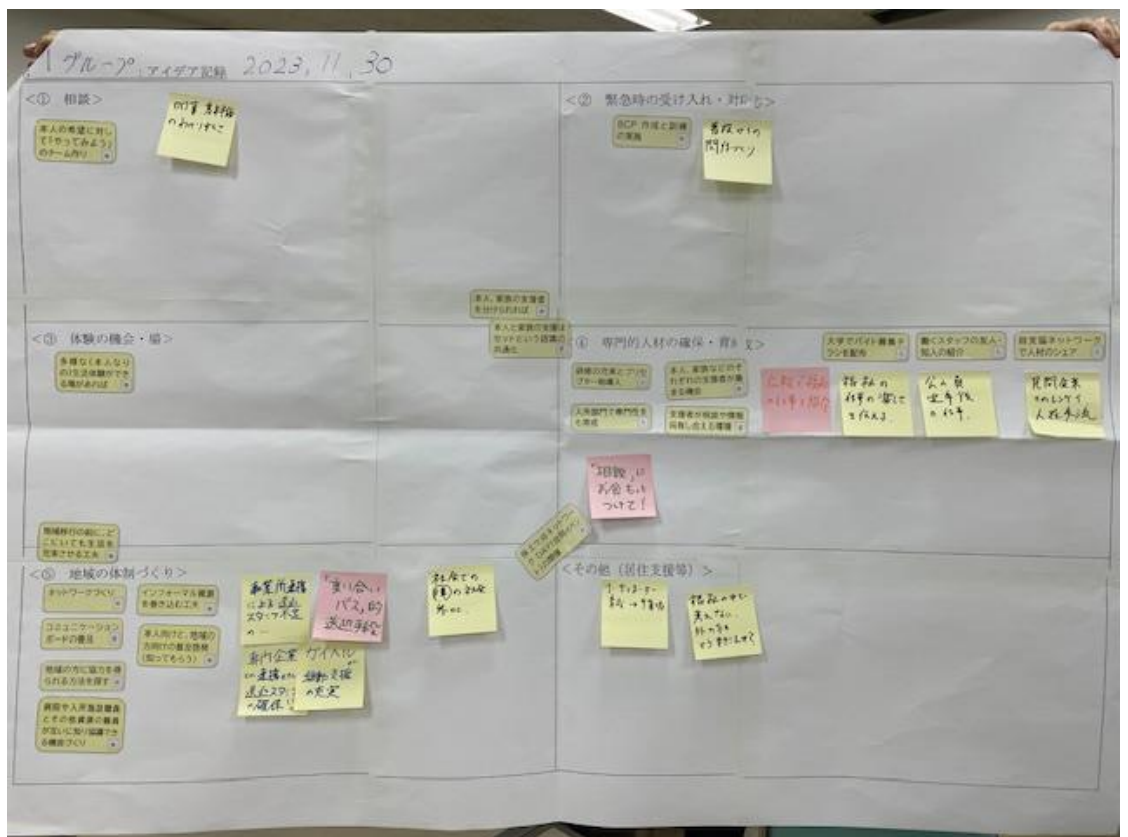
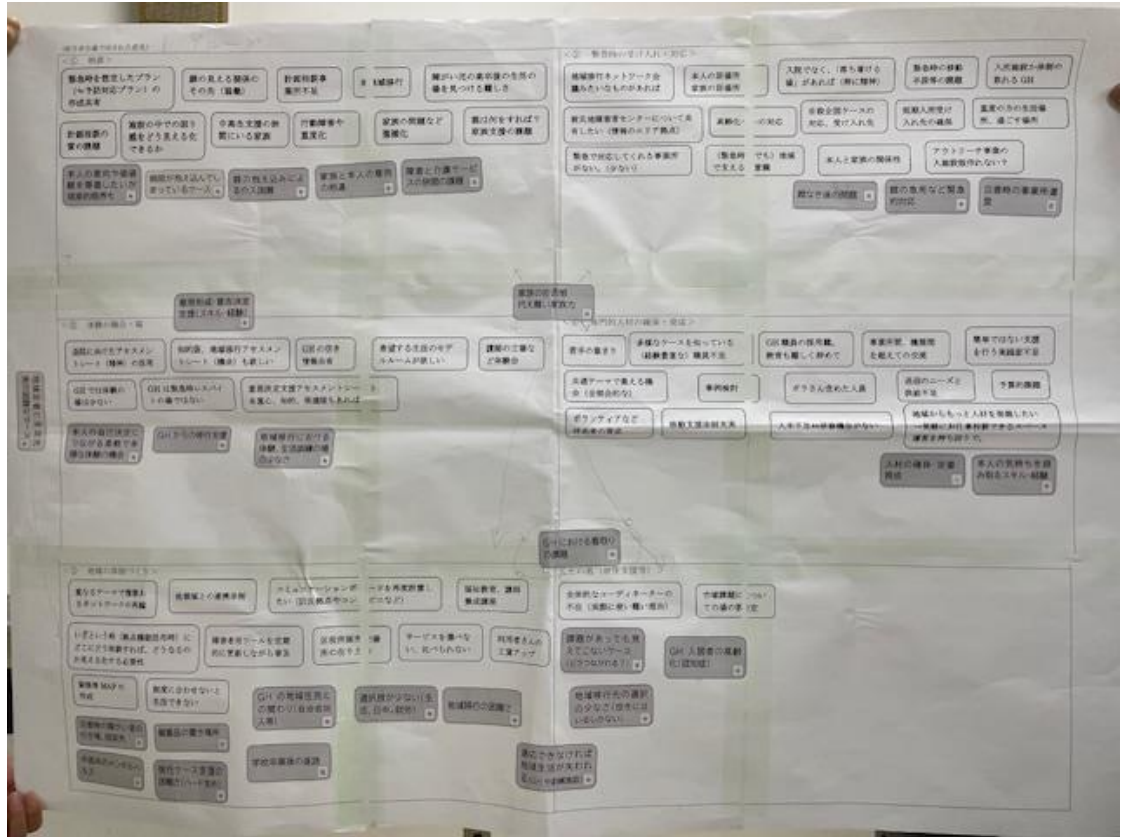
① 代表者会議で出た課題を拠点の6機能に分類

② アイデアを付箋に書き出して6機能に分類

・ワーク (35分)

・共有 (10分)

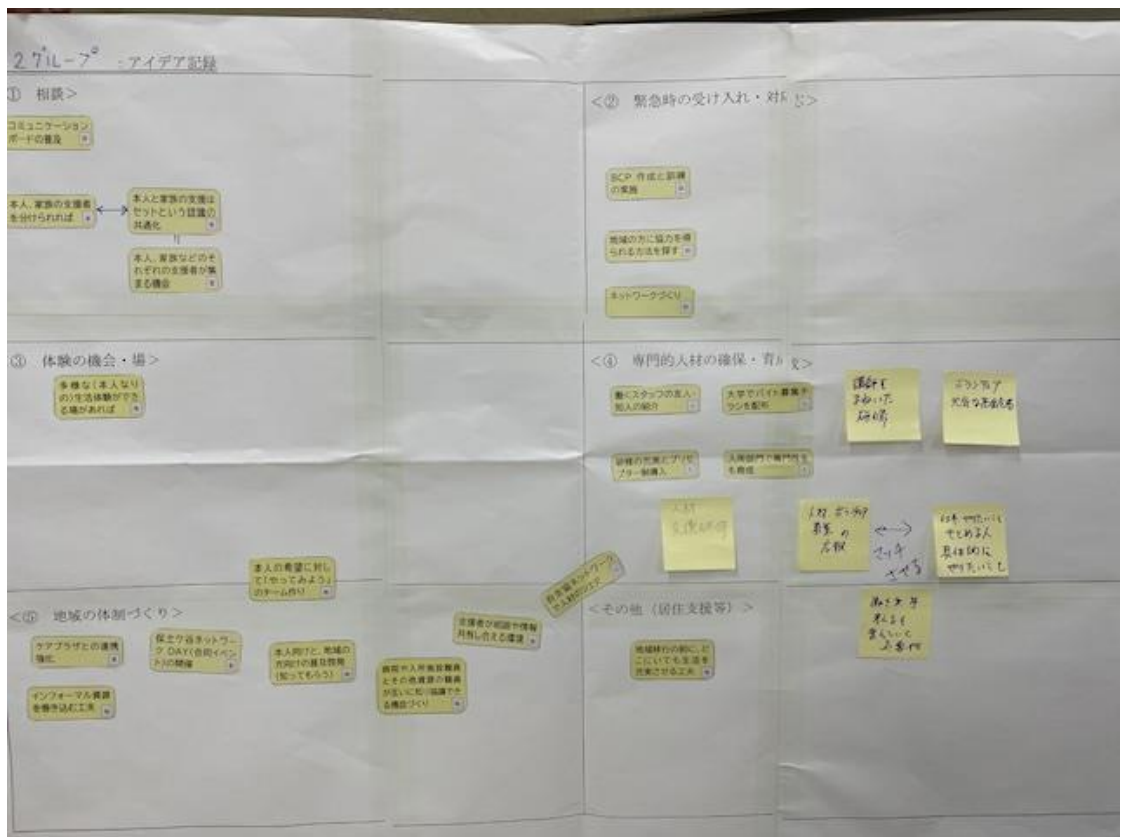
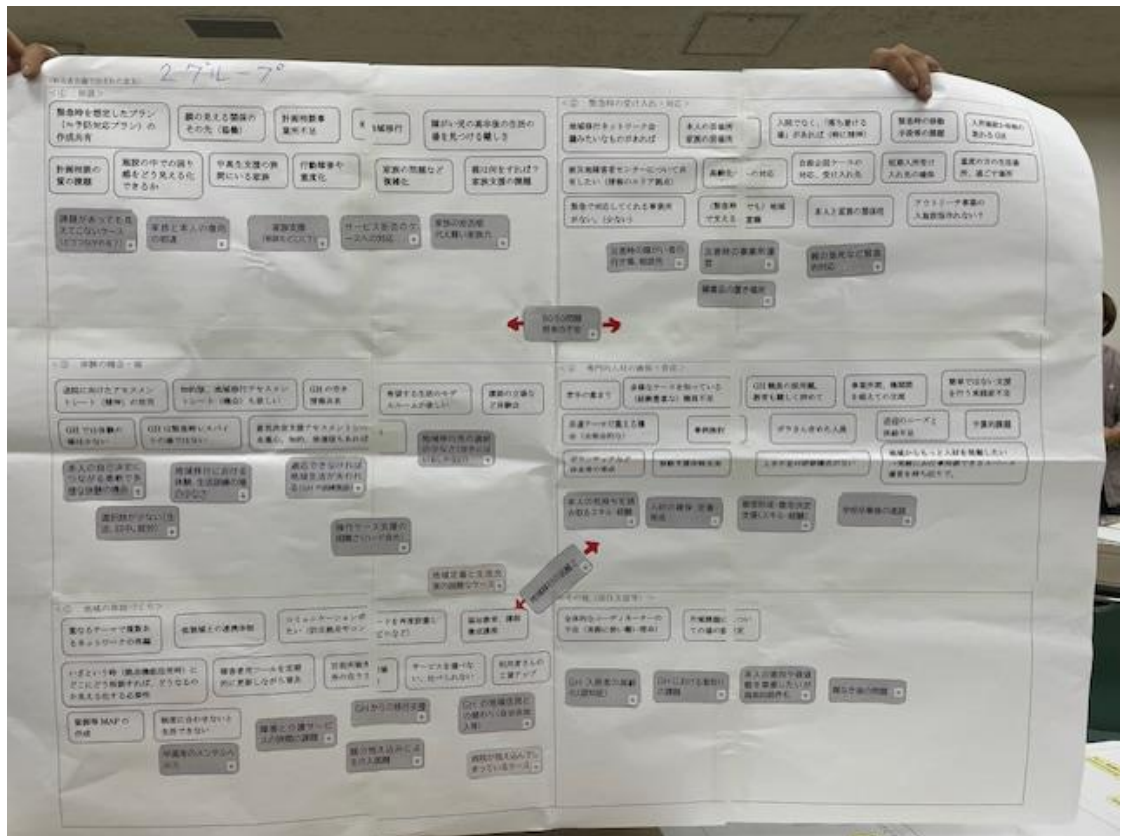
01 グループ



人材不足や地域における体制づくりについて、送迎では事業所同士が協力して乗り合いバスのような形をとれないか、という意見が出た。民間企業との連携など、福祉の枠を超

えたとつながりが必要ではないか。

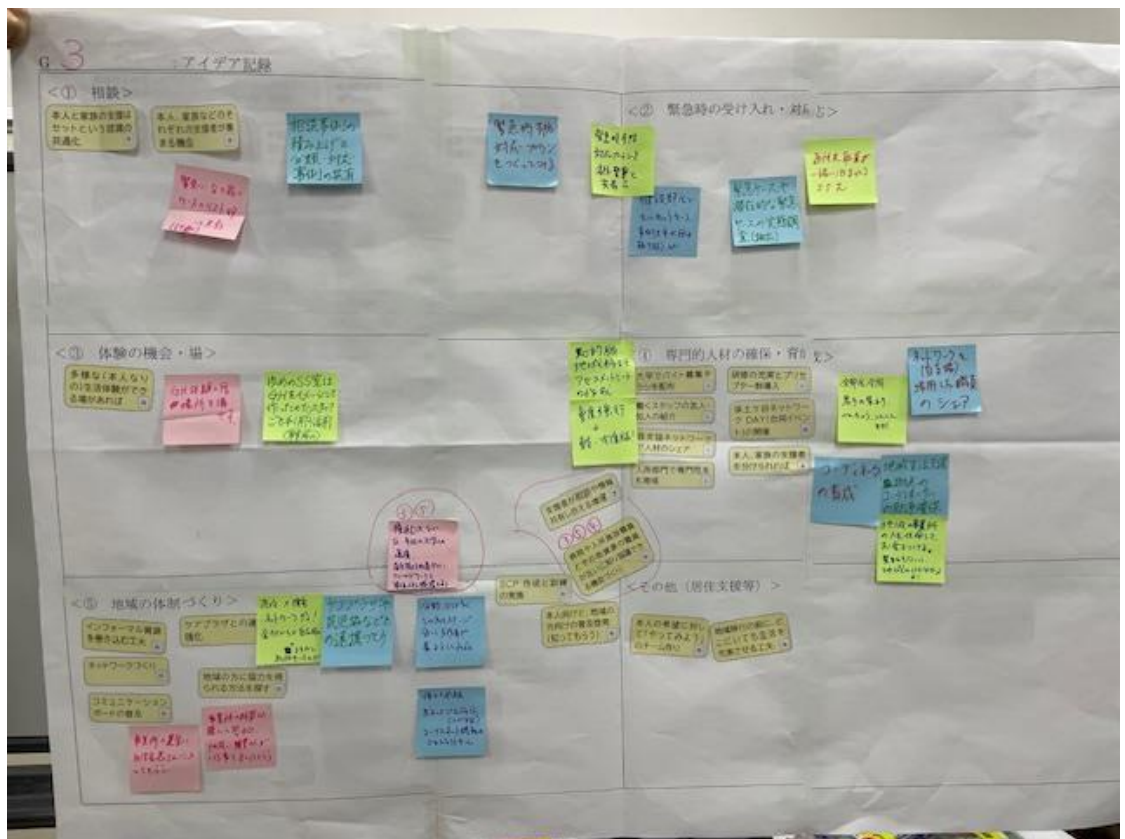
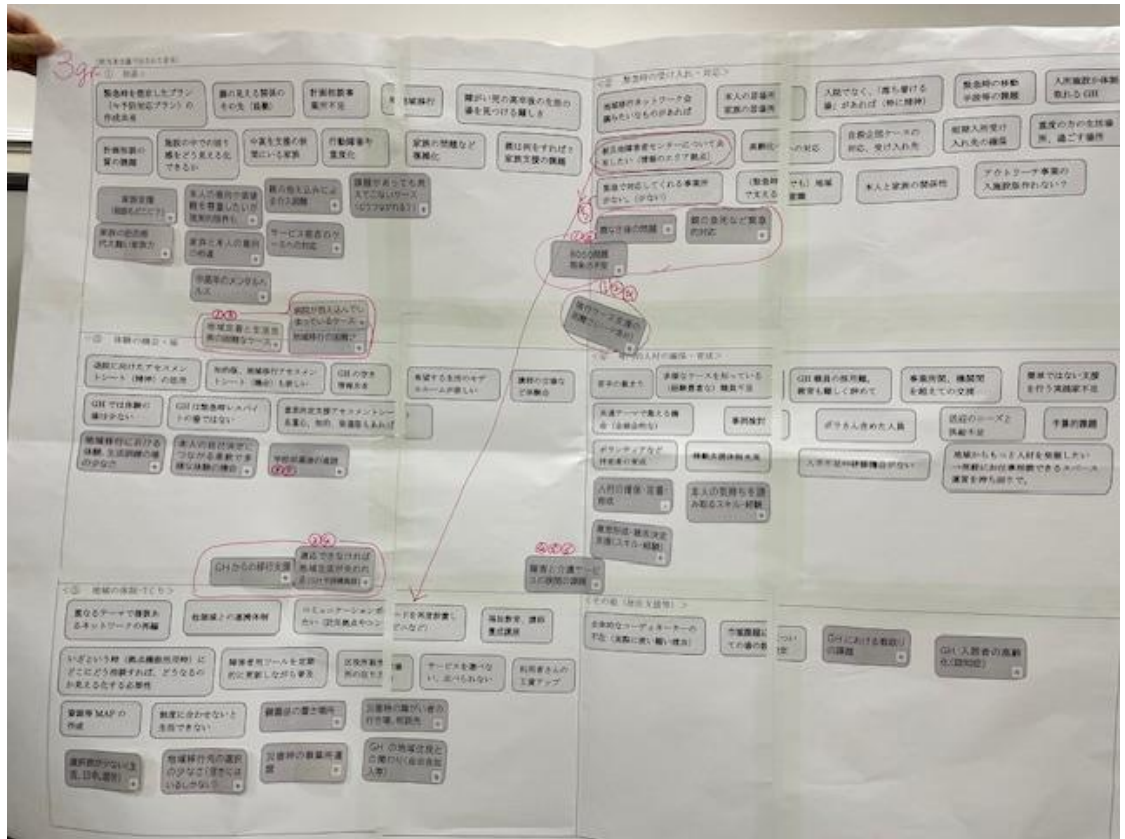
〇2 グループ



特に人材の確保・育成にポイントを絞って話した。人材育成については講師を招いた研修など事業所外の資源を利用すること、人材確保については、人手を求める側と仕事やボ

ランティアを探す側の細かい条件をマッチさせられる仕組みづくり、などを話した。

〇3 グループ



・相談、緊急時は課題は多いがアイデアが少ない、人材、地域の体制づくりはアイデアが多いことがわかる。これがわかったことが重要なのではないかな。これは、少ないところを埋める、ということでもないかもしれない。

- ・お金の担保、予算要求の関係もあり、実態の調査は必要と思われる。
- ・他区の取り組み（都筑区のまるっとプロジェクト等）も参考にして、保土ケ谷に合ったスタイルを考えていきたい。
- ・学校には複数区から生徒が通ってくるので、他区のことも知りたい。福祉分野とどのように繋がれるか、今から繋がれる部分は何か、学校の課題とを感じる。

○今回出たアイデアは、12月11日の3機関カンファレンスで共有し、整備計画に繋げていきたい。

4. その他（情報共有等） /15:45-16:00

- ・令和5年度 第3回担当者会議日（遠藤氏）
日時：令和6年2月29日（木）14:00-16:00
場所：保土ケ谷公会堂 第1会議室
内容：令和5年度部会報告・令和6年度部会計画と令和6年度拠点整備計画（案）の共有
- ・令和5年度報告書・令和6年度計画書作成の件（遠藤氏）
正式なものは事務局を通じて共有する。

11月30日	担当者会議で計画書の書式共有 ※後日データ共有
2月22日	報告書(案)・計画書(案)提出メ切
3月8日	報告書(確定版)・計画書(確定版)提出メ切

- ・地域支えあい研修（まちで暮らすネットワーク～拠点部会～共催）（遠藤氏）
自立協、しゃべる一む、区作連の共同開催
日程：2月7日（水）18:00～19:30 場所：保土ケ谷公会堂第1会議室
内容：講義 保土ケ谷区の自立支援協議会と区作連
GW キャリア別ワークを実施予定
- ・ほっとらんどに参加する事業所を募集している。（石田氏）
- ・旧優生保護法裁判について、署名のお願い。（石田氏）
障害者差別の根本に向き合う重要な裁判であり、障害福祉を仕事とする人においてはよく考えていただきたい。
- ・目黒区報 コミュニティーソーシャルワーカーの取り組みについて紹介。（石田氏）
行政の事業として予算もついているため、進んでいるとも考えられるが、拠点の取り組みに活かして行けないか。
- ・来年4月の報酬改定において、加算の厳格化などが検討されている。加算継続についての署名のお願い。（石田氏）
- ・精神科リハビリテーション学会 岡山大会（内田氏）
プログラムの一つとして、保土ケ谷区のアウトリーチ事業の紹介をおこなう。
開催後には報告会もできれば、と考えている。

次回担当者会議：2月29日（木）14：00～16：00

場所：保土ヶ谷公会堂第一会議室